

家庭での防災対策に関するアンケート 集 計 結 果

令和元年12月18日
新千里東町地域自治協議会
防 災 委 員 会

1 アンケートの回収状況

アンケートは、対象戸数 3,979 戸のうち 691 戸から回答があり、回収率は 17.4% でした。

また、マンション別にみると、表 1 に示すとおり、回答率は 48.2%~0%の範囲 でした。

なお、回答者の居住階層別の割合と年齢階層別の割合は、図 2~3 のとおりでし た。

全体では、年齢階層別に大きな偏りはありませんでしたが、マンション別にみると回答者が 70 歳以上の高齢者に大きく偏っているマンションや働き盛りの 40~ 50 歳代に偏っているマンションもありました。

表 1 アンケートの回収状況

マンション名	戸数	回答数	回答率
メゾン千里	261	33	12.6%
新千里桜ヶ丘メゾンシティ	524	180	34.4%
新千里東町アーバンライフ	59	19	32.2%
OPH新千里東町	72	15	20.8%
ガーデンヒルズ千里中央	226	85	37.6%
シティハウス千里中央	116	21	18.1%
ジオメゾン新千里東町	218	105	48.2%
ジェイグラン千里中央	140	0	0.0%
府営新千里東町住宅	781	40	5.1%
ステラハイツ千里	19	0	0.0%
グランドメゾン千里中央東丘	246	73	29.7%
ローレルコート新千里東町あかしの丘	221	81	36.7%
UR都市機構新千里東町住宅	1,100	39	3.5%
全 体	3,979	691	17.4%

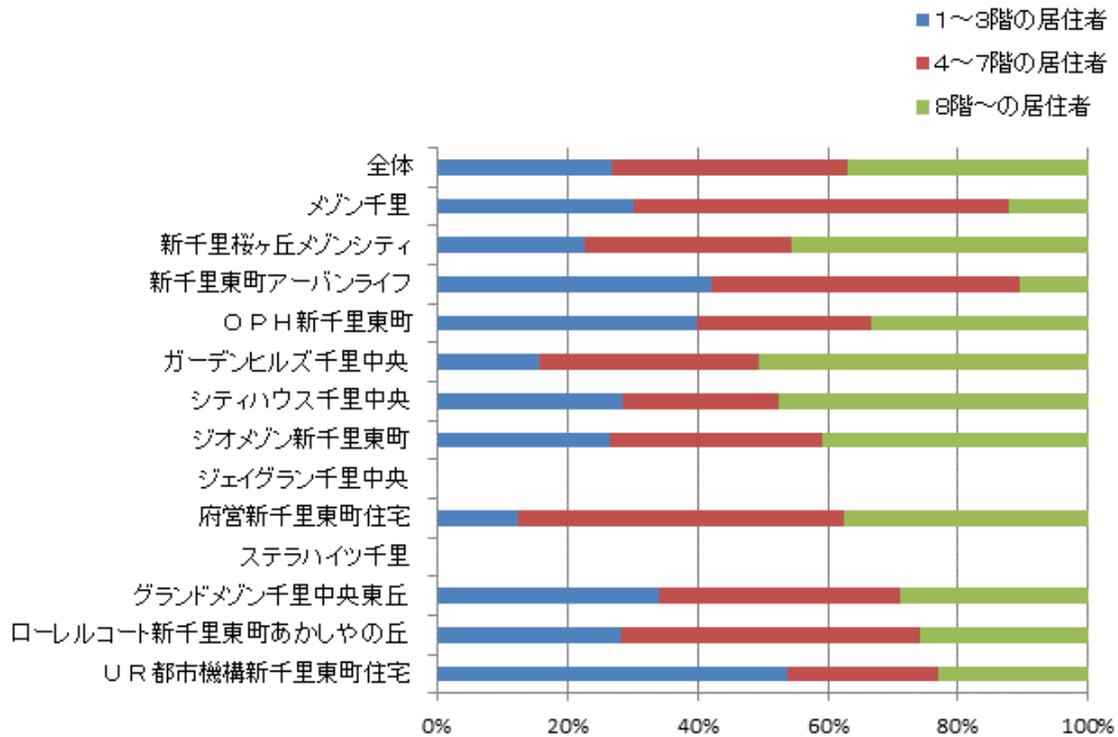


図2 回答者の割合（居住階層別）

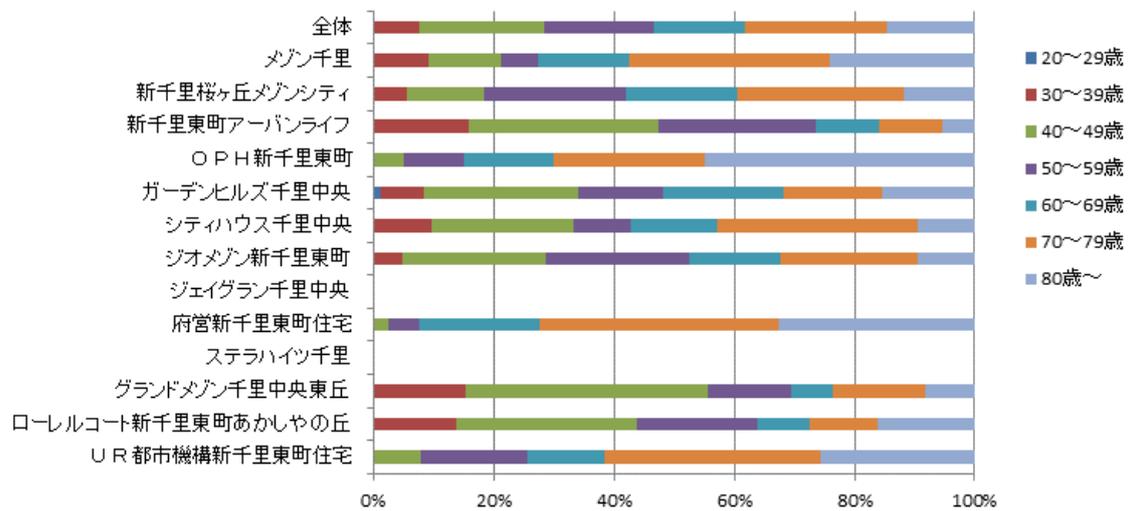


図3 回答者の割合（年齢階層別）

2 物資の備蓄について

避難生活を送るための物資について、備蓄を行っているのは回答者 691 戸に対して 568 戸で、82.2%が備蓄を行っていると回答しました。

これをマンション別に見ると、図 4 に示すとおりで、物資の備蓄をしているのは 72.6~95.2%でした。

また、居住階層別に見ると、図 5 に示すとおり、1~3 階が 81.7%、4~7 階が 80.7%、8~階が 84.6%であり、居住階層による差はほとんどなかった。

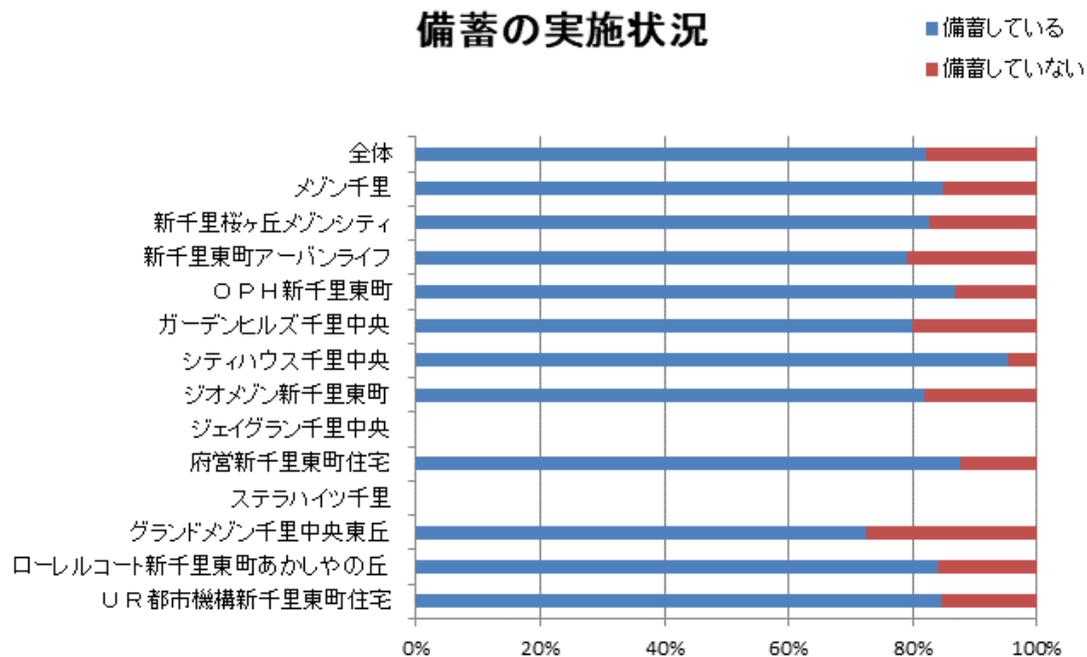


図 4 避難生活を送るために必要な物資の備蓄の実施状況

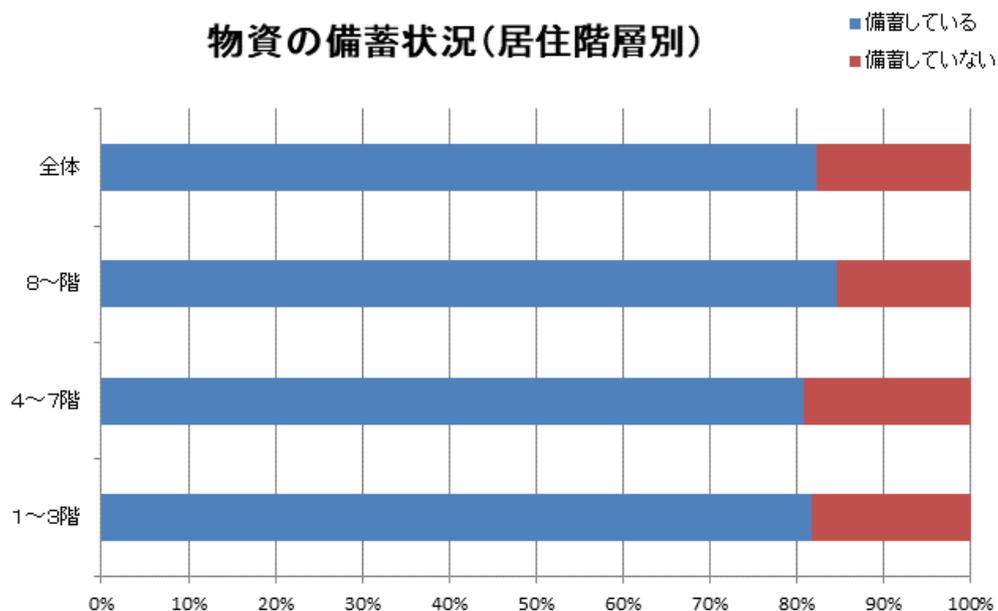


図 5 避難生活を送るために必要な物資の備蓄の実施状況 (居住階層別)

また、品目別の備蓄の実施状況は表6のとおりであり、飲料水（74.2%）、食料（64.3%）、乾電池（60.6%）の順に高く、紙おむつや生理用品（19.1%）が最も低かった。

表6 品目別の備蓄率

品目名	備蓄率
飲料水	74.2%
食料	64.3%
携帯トイレ	33.0%
医薬品	46.5%
紙オムツや生理用品	19.1%
カセットコンロ用ガスボンベ	52.4%
乾電池	60.6%

なお、その他の欄に自由記述されていた備蓄品は、次のとおりです。

- ・ラップ、紙皿、紙コップ、割ばし、スプーン、アルミシート、ビニール袋（水が出ない時、食器に巻いて使用するため）、ジプロック、給水用のビニール水筒、
- ・トイレットペーパー、ティッシュ、消毒用ティッシュ、ビニール袋、ゴミ袋等、消臭袋、消毒用アルコール、液体ハミガキ、カイロ、ドライシャンプー、からだふき紙、おしりふき、ウェットティッシュ、ハブラシ
- ・保存水、
- ・缶詰類、栄養剤、甘いもの、チョコレート、キャンデー、菓子、ジュース、スポーツドリンク
- ・トイレ用の水
- ・タオル、大判タオル、マスク、軍手、洗面用具
- ・防水・防寒着、ポンチョ、下着、靴下、子どもの服など、捨てても良い服・下着、雨合羽、手袋、湯タンポ、
- ・寝袋、アルミ保護シート、保温シート、断熱シート、毛布、カイロ、貼るカイロ
- ・テント
- ・筆記具、ノート、筆記具、ヒモ、ガムテープ、マジックペン、新聞紙、
- ・懐中電灯、ランタン、非常用ライト、ローソク、マッチ、ヘッドライト、スタンドランプ、センサーライト
- ・カセットコンロ
- ・手動発電ライト&ラジオ、多機能ラジオ、手回し発電ラジオ、ラジオ、
- ・充電器、乾電池によるケータイ充電、モバイルバッテリー、太陽電池、手回し充電器、充電用のリチウム電池
- ・電源タップ、延長コード、
- ・無線機
- ・笛、ホイッスル、白板
- ・21点のセット、防災グッズ
- ・ブルーシート、小型バール、ヘルメット、ロープ、
- ・非常用給水パック、水運搬用ポリタンク
- ・現金（コイン、1000円札）、テレカ、
- ・車の燃料満タンにし DC20V・AC100V・300W以上のインバータ
- ・ペット用のトイレグッズ、食料

一方、備蓄をしていない理由は表7のとおりでした。

表7 備蓄をしていない理由

理 由	回答数
災害は起こらないと思っているから	2
災害があっても、ライフラインは停まることはないと思っているから	17
災害が発生すれば、直ぐに救援物資が届くと思っているから	2
備蓄が必要なことを知らなかったから	2
家の中にスペースがないから	36
特に理由はない	55
その他	33

なお、その他について、自由記述欄に記載されていた理由は、次のとおりです。

- ・ 停電すると、医療器具（例えば CPAP）は対応できない。
- ・ 買いおきできる程、生活に余裕がない。主人が必要ないといってバカにするので、バカにされたくないから一時期は買いおきも4～5日はしていましたが、やめました。
- ・ そろえるだけのお金がないから
- ・ ふだんの食品も半額の食品を買い、日々ぎりぎりで翌日以降のことで使うお金がない。今回の台風では、あきペットボトルに水を入れておく事くらいはした。停電等になると、コンビニでポテトチップを買って食べようと思った。ベランダ植木ばちは片づけた。（防災意識がないわけではない。
- ・ 備蓄しても自分達では運べない
- ・ 4階ですから、すぐ降りる。
- ・ 期限を確認して、また入れ替えするなどが手間であるから
- ・ 防災食品の売っている所がわからない。
- ・ 食料は何を備えて良いかわからない。
- ・ 2日分の食料があればいいと思っていたからです。
- ・ 2～3日分くらいのストックがあるので
- ・ 1週間分は備蓄できていないが、2～3日分はある。
- ・ 数日すればライフラインは回復すると思っているし、2～3日分の食料なら冷蔵庫にあるし、台風接近時には風呂に水を溜めたりしているのが現状です。
- ・ 一時備蓄したが、ローリングストックになっていない。
- ・ 備蓄にもいろいろな商品があり選考中。今年中に備える予定。
- ・ すぐに買いに行けばなんとかなると思っているから
- ・ 一人の生活でどうにかなるかなと安易な考え
- ・ 必要性は感じているが、まだできていない。
- ・ 備蓄しなければと思いつつ出来ていない現状です。
- ・ 必要性は感じているが、引越し直後で取組めていない
- ・ 備蓄したいが実行できていない。多忙のため。
- ・ 気にかけているが、実行とまで中々進まない。
- ・ 備蓄をしなければと思い乍、実行できていません。しなければと云う気持ちのあせりがあります。
- ・ 必要あると思うが、もってくるのが大変
- ・ 常に準備するのが困難
- ・ 備蓄の必要性は感じているが、行動にうつせない
- ・ めんどく
- ・ 期限が切れた
- ・ 気力がない

3 家具の転倒防止対策について

家具の転倒防止対策をしていないのは回答者 691 戸中 233 戸で、33.7%が対策をしていないと回答しました。

これをマンション別にみると図8のとおりで、家具の転倒防止対策をしていないのは23.8~46.2%の範囲でした。

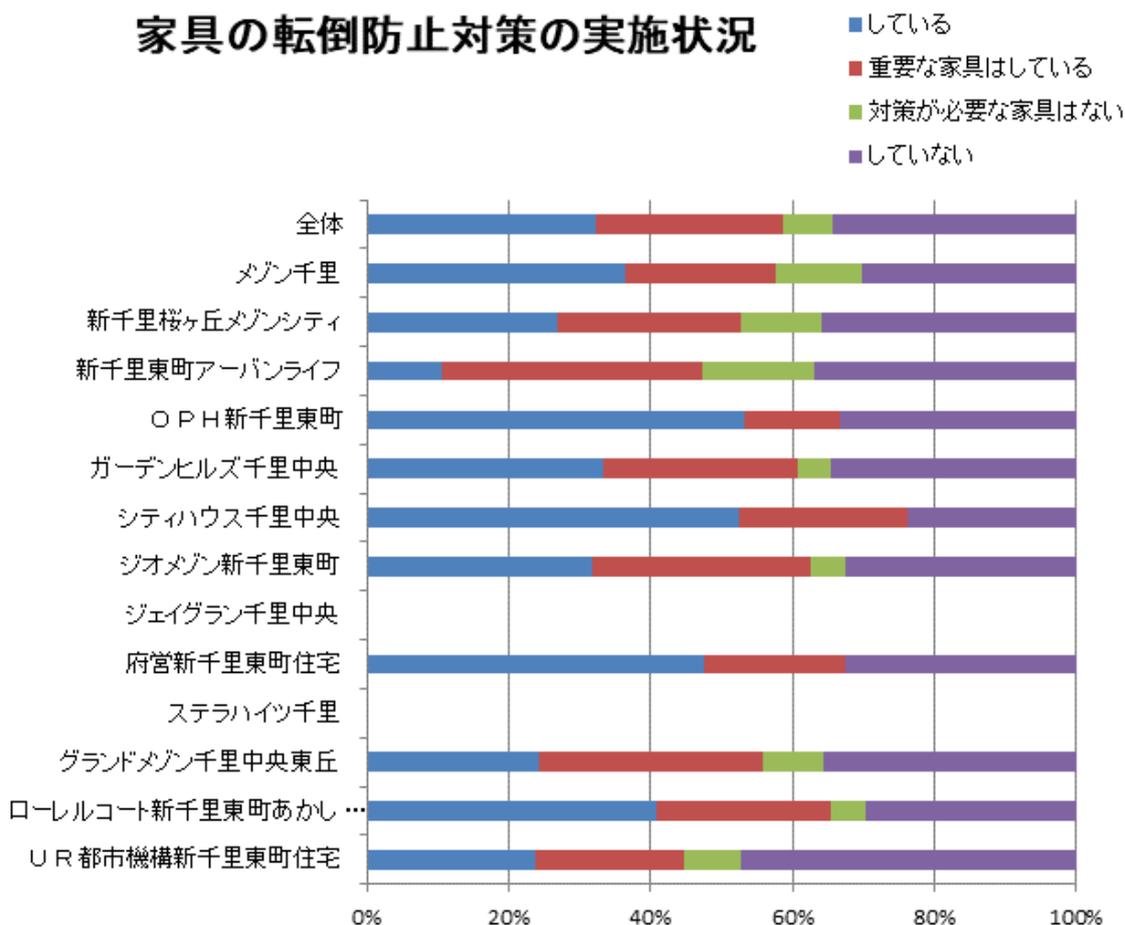


図8 家具の転倒防止対策の実施状況

また、居住階層別に対策の実施状況を見ると、図9に示すとおり、対策を実施していないという住戸の割合は、1~3階が41.9%、4~7階が33.3%、8~階が28.3%と、上層階に行くほど低くなっていた。

家具の転倒防止対策の実施状況 (居住階層)

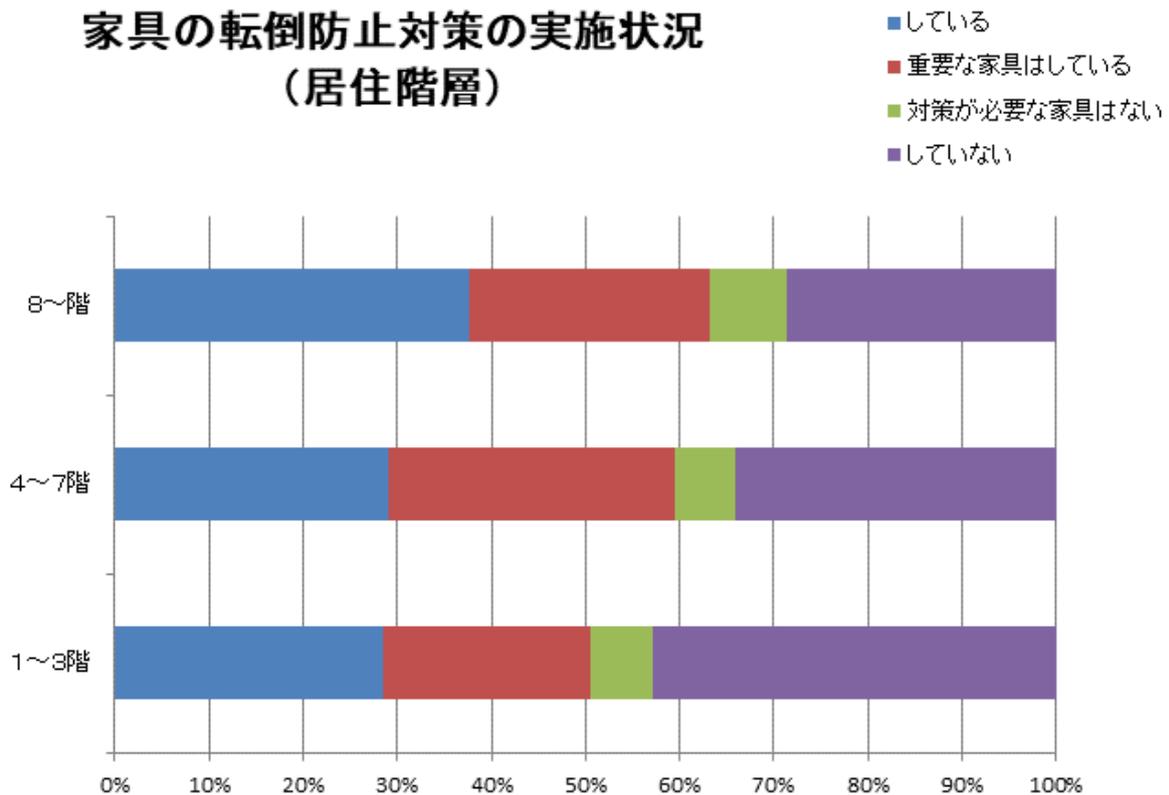


図9 家具の転倒防止対策の実施状況 (居住階層別)

また、家具の転倒防止対策をしていない理由を尋ねたところ、表10のとおりでした。

表10 家具の転倒防止対策をしていない理由

理 由	回答者数
家具が転倒することはないと思っている。	14
免振マンションなので必要がないと思っている。	39
転倒防止対策をするのが面倒だから。	68
転倒防止の方法を知らないから	20
転倒防止のための材料を売っている場所を知らないから	14
家具と天井の間の高さに合った転倒防止器具が販売されていないから	26
その他	75

なお、その他の自由記述欄に記載されていた回答は、以下のとおりです。

- ・寝室に倒れる家具は置いていないので
- ・腰より高いものは寝室には置かない
- ・低い置位にしている
- ・家具は低いものになっている。また、来年引っ越しがあるため。
- ・背の高い家具がほぼないから
- ・就寝時の空間に危険な転倒家具を置いていない。
- ・家具が倒れる方向にベッドを置かない。etc
- ・転倒するのはテレビぐらい
- ・そんな高い家具はおいていない。
- ・大きな家具がないから
- ・専用の部屋に集約して、日常は使っていない。
- ・高い家具のある部屋は使用していないから
- ・高い家具がない
- ・低い家具を置いてない
- ・日常生活している部屋には倒れる家具を置いていない
- ・リビング、寝室には高い家具はおいていない。
- ・家具の背が低い、唯一、木棚が高いが誰も寝ていない
- ・背の高い家具を置いていない。
- ・危険と思われる家具が少ないので
- ・倒れる家具の部屋に殆ど居ない。テレビの側に座っていない。
- ・あまり対策が必要な家具等がないため
- ・タンスなどないから
- ・タンスの部屋で日常生活をしないようにしている
- ・寝室に倒れる物はないが、棚から落ちる物などは沢山有
- ・対策の必要な家具がなくはんさいが少ない。
- ・重要な部屋にはない
- ・寝室に大きな家具は置かないようにしている。
- ・寝室にはベッド以外家具は置いていない。
- ・寝室には家具を置いていない
- ・一つの部屋に固めて家具を置いており、普段は無人。
- ・テレビの下に簡単なクッション材をひいているのみの対応
- ・寝室に転倒するような家具を置いていない。
- ・寝室には転倒する物は置いてない。リビングは、対策しようと思っているが、出来ていない。
- ・倒れ易いものを上（方）に置かないようにしている。
- ・寝室に家具を置いていない。高さのある家具がない。
- ・作り付けの家具が多いから
- ・家具がほとんど備え付き
- ・危険でない場所があるから
- ・天井がフワフワしているので、家具を止めていない
- ・天井が幕天井とかいって押さえることができない。器具を使用できない
- ・高齢者住宅の天井はフワフワのビニールがかぶせてあり、ストッパーは止まらない
- ・天井がビニールシートで覆われているので、器具がつかばれない。多分、アスベストの飛散防止の養生
- ・自治会で転倒防止対策のものを購入したが、家具にあわずにいる。
- ・高齢のため準備が難しい
- ・自分ではできない。天井ができない。ブヨブヨだから。
- ・防止対策をしたいのだが、自分ではできない
- ・高齢者がおり、なかなか一人ではできません。
- ・重くて動かすことが難しいので

- ・少しはしているが十分ではないと思っている。家具が高くて設置できない。
- ・物品や家具ごとの防止器具が良くわからないので
- ・壁に穴を開けるとき、どこに打てば良いかが不明
- ・対策の方法がわからない
- ・近々購入しようと思っている。
- ・対策しようと思っていますが、どの方法が良いか検討中
- ・準備中
- ・TVはやっている。台風 21 号でタンスは倒れたので、今後対策必要と考えている。
- ・対応検討中
- ・引っ越したばかりで、これから対応します。
- ・しようと思っている。
- ・予定はあるが、未着手。
- ・材料を買うお金がない。
- ・阪神大震災の時も北大阪地震の時も家の中はぐちゃぐちゃになったが、お金を使ってきちんと家具を購入できていないので、補強もできないし、補強の資金もない
- ・現在では、転倒するだけの空きがない。家具同士のもたれ合い
- ・倒れても家具と家具の間が狭いので、床まで倒れない配置にしている。
- ・とびらは開かないようにしている。
- ・UR 団地なので勝手にやってはいけないのではないかと思う。
- ・賃貸なので、壁にくぎをうてない。
- ・借りているお部屋なので。
- ・賃貸のため
- ・先般の大地震（震度 5 強）で何の被害もなかった。（1 F）
- ・前は転倒防止をしていましたが、引っ越してからぬけてました。
- ・必要性は感じているが、引越し直後で取組めていない
- ・不安と思いながら先送りになっている。対策したいと思う。
- ・危険性を感じているが、先のばしになっている。
- ・特にない
- ・考えられません。
- ・しないといけないと思いながら、出来てないです。
- ・気力がない

4 安否確認の方法

ご家族の安否を確認する方法を定めている方は回答者 691 名中 494 名で、71.5%の人が定めていると回答しました。

これを年齢階層別に見てみると、図11に示すとおり、30～40代では70%を下回っており、50代以上の年齢階層に比べてやや低くなっていました。

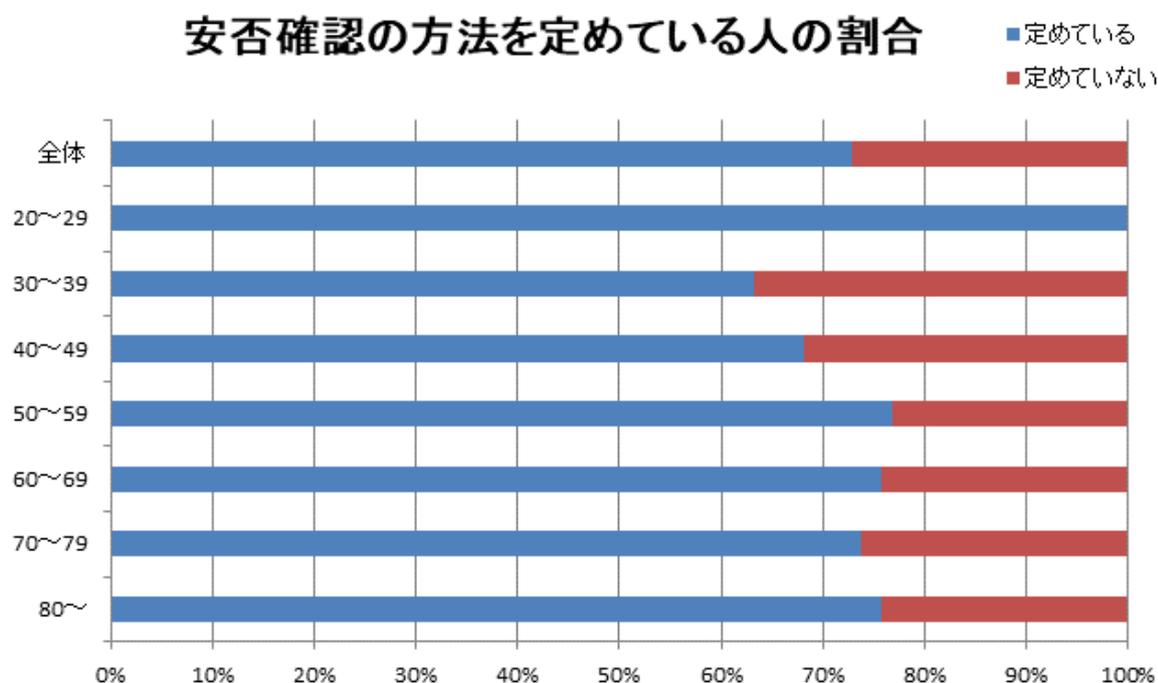


図11 安否確認の方法を定めている人の割合

また、安否確認の方法を定めている人にその手段（方法）をお尋ねしたところ、その結果は図12のとおりです。

70代以上の年齢階層では固定電話や携帯電話・スマホの通話を挙げた人が多い一方、60代以下の年齢層ではLINEや携帯電話・スマホの電子メールやSMSを挙げた人が、最も多くなっていました。特に、50代以下ではLINEの使用が最も多く掲げられていました。

安否確認の方法(手段)

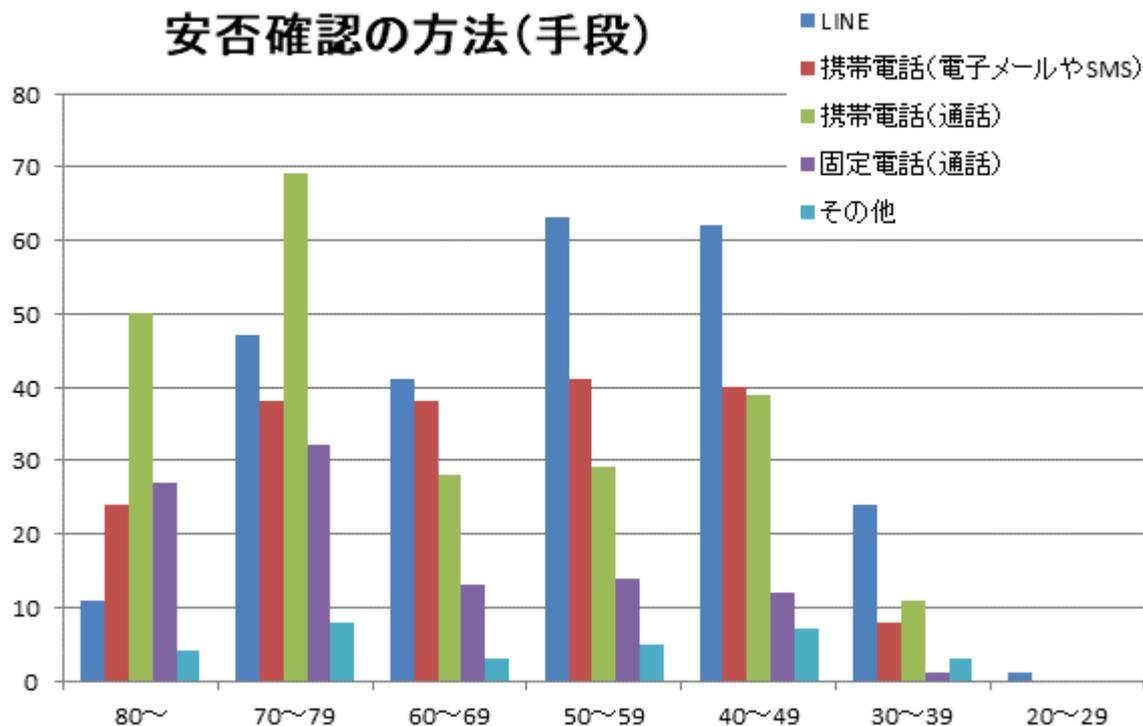


図12 安否確認の方法(手段)

その他の手段として自由記述欄に記載されていた方法は、以下のとおりです。

- ・ 携帯会社の災害時ボイスメッセージ
- ・ NTT 災害伝言ダイヤル「171」 (複数あり)
- ・ NTT のいまどここのソフトを使っている。
- ・ パソコンの電子メール
- ・ 大都市圏では連絡がとりにくくなると思うので九州・岡山の家族に中継してもらう。
- ・ tel がだめな場合、東丘小学校を確認する。
- ・ 歩いて近くに住んでいる子供がいる。
- ・ 集合場所を決めている (複数あり)
- ・ 避難場所を決めている。
- ・ 自宅以外に安全な場所を決めている
- ・ 避難場所に行くこと
- ・ 東丘小学校で待ち合わせ
- ・ 小学校の講堂
- ・ 公民館や体育館に集合

一方で、安否確認の方法を定めていない人にその理由をお尋ねしたところ、

- ・ 安否確認が必要な家族がない 26人
- ・ 使用できる手段がない 15人
- ・ 安否確認が必要になる事態が起こるとは思っていない 16人
- ・ その他 111人

でした。

また、自由記述欄に記載されていた回答は、以下のとおりです。

- ・障害を持つ娘と常に身近に居るため、設問の状態にならない。
- ・母親との同居なので
- ・近場に固まっているため直接確認する
- ・近所にいるため
- ・家族が近くのマンションに住んでいる
- ・近い場所に住んでいる。
- ・近くに子供が居るから
- ・全家族近距離に住んでいる
- ・歩いていける近場に住んでいる。
- ・近隣に住んでいる
- ・ほとんどいっしょにいる。
- ・日頃交流少ない
- ・ひとりぐらし
- ・遠くに住んでいるため
- ・両親が高齢のため、メールや電話以外での連絡をとりにくい。
- ・子供に通信手段がない。
- ・一人前の大人なので各自対応できる。スマホ等がある。
- ・子どもはすでに独立しているから、別段気にしていない
- ・予め決めていないけど、当然電話になる
- ・特に決めていないけど、通常時同様、ケータイ、LINE で連絡をとる
- ・“災害の時”とは決めていない（スマホや携帯電話の電子メール、SMS、通話）
- ・スマホと思っているが、話し合っ決めてはいない。
- ・結局、スマホやPCになると思うので、打合せはしていない。
- ・決めてはいないが、連絡が付きやすい順にするであろうと思っている。（個人持ちのスマホ）
- ・現状はLINE がベターと考えている。将来は判らない。
- ・各自携帯電話を持っています。
- ・電話、スマホ等は家族も持っている。
- ・いつも電話をしている。
- ・携帯電話、スマホで連絡できるかと
- ・決めていないが、携帯電話やスマホの電子メールやSMS の方法で可能
- ・決めてはいないが、スマホで確認する。
- ・特に決めていないが、その時の状況でスマホ、固定電話等で連絡をとる。
- ・携帯のショートメールのやり取りを考えているが、特に決めた手段ではない。
- ・決めていなくても、スマホのLINE、スマホの電子メール、SMS、通話の方法をとるはず。
- ・特に決めていないが、スマホで連絡することになると思われる。
- ・その時、利用可能な手段を使うから
- ・スマホ、LINE での連絡を日常よりしているため
- ・特に決めていないだけ、SNS を使う。
- ・スマホでの設定の仕方がよくわからないし、LINE はやりたくない。
- ・その時になればさすが。災害緊急ダイヤルは利用してみる。
- ・決めてはいないが、スマホのLINE、電子メールやSMS 通話、固定電話の通話にて確認する。
- ・スマホによる確認
- ・安否確認を必要とする時には、携帯・固定電話で連絡をとるから。
- ・スマホやLINE で必ず確認するだろうから。

- ・スマホ、電話は使えないと想定し、集合場所を、決めている。
- ・スマホにまちがいないと思っている。会社の場合は待ち合わせ場所を決めており、そもそも通信手段はつながるのか不明と思っている。LINE はつながると聞いているが。
- ・東丘小学校に行く決めてはいるが、時と場合によるから
- ・電話はつながりにくいので、近隣の学校に集合と決めている。
- ・避難所に集合する。
- ・色々ためすしかないと考えているから
- ・手段の選択肢が思いつかない。
- ・どの方法が実際向きかわからない
- ・使用できる手段がない
- ・何がいいかわからない。
- ・どんなことができるかわからない。アプリなどあるだろうが知らない。
- ・決めてはいないが、各自逃げきる。携帯電話・スマホの電子メールや SMS は通常の方法だと思う。これを使えないのが、災害だと思っている。
- ・可能であれば、携帯→メール／電話→災害伝言ダイヤル 淀川を渡ることが可・否で…
- ・大災害ではスマホ・固定も使用が不可能に近いから
- ・切実感がない為ですが、決めないといけないと思っています。
- ・その都度、居場所が異なる。
- ・今度、息子達と会った時、しっかりと決めようと思う。
- ・今回、定めなくてはと思いました。
- ・スマホや携帯電話を持っていないので、今後、対策をたてたい。
- ・至急、家族で話し合っ決めてたいと思います。
- ・これから決めようと思う。話し合っ。
- ・全員スマホを持ち始めたので、この機会にルールを定めたい。
- ・そのような事態の事を考えて、これから定めようと思います。
- ・ただやってない
- ・まだ決めていない
- ・しっかりと相談できていない。
- ・まだ具体的に決めていないから
- ・特にない
- ・先送りになっている。
- ・必要だと思っているが、まだできていない。
- ・やろうとは思っているが、なかなか行動にうつせていない。
- ・今までその様な体験がなかったので、これから考えようと思う。
- ・なんとなく
- ・きちんと話し合っていない
- ・ただ決めていないだけ
- ・なんとなく
- ・あまり考えていない
- ・話題としていない
- ・きちんと話し合っていない。
- ・まだ決めていない
- ・なんとかなる
- ・今後、検討する。
- ・話し合う機会を忘れてしまう。
- ・まだ話し合っていない。(災害ダイヤルは知っているが)
- ・必要とは思っているが、きちんと話し合っ、決めていない。
- ・今のところ、考えていなかった。

- ・必要と思いながら、しっかり確認できていない
- ・その様な事を話し合ったことがない
- ・必要と思っているが、あとまわしになっている。
- ・特に理由はない
- ・特にそのような話をしたことがまだない。
- ・子供達とはそういう事について話をしていない。
- ・話し合いが出来ていない。
- ・必要だとは思いますが、きちんと話し合ったことがないため
- ・未着手
- ・定める必要はあると思うが、まだやっていない。
- ・単に決めていない

5 避難所の認知状況について

避難所の開設場所を知っている人は回答者 691 名中 495 名で、71.6%の方が知っている」と回答しました。

これをマンション別にみると、図13に示すとおり、知っている」と回答した人の割合は、95.2～60.6%の範囲でした。

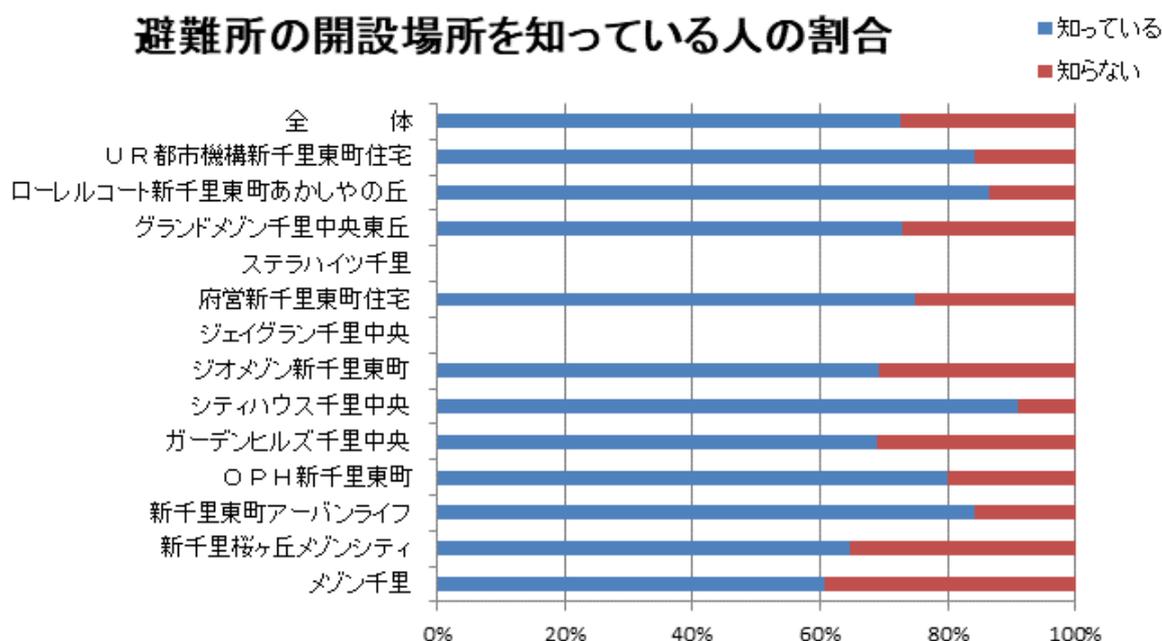


図13 避難所の開設場所を知っている人の割合

また、開設場所を知っていると回答した人に、避難所の開設場所を具体的にお尋ねしたところ、その結果は表14のとおりです。

東丘小学校は、最も認知度が高く、知っている」と回答した人 495 人のうち 433 人 (87.5%) が回答していました。次いで、第 8 中学校の認知度が高く、113 人 (22.8%) が回答していました。

なお、何人かの方が、一時避難地である千里中央公園や東町公園、榎ノ木公園を回答していました。

表14 避難所であることを知っている人の数

マンション名	知っている と回答 した人数	東丘小学 校	第8中学 校	東丘こど も園	千里体育 館	千里文化 センター 千里文化 センター (コラボ)
メゾン千里	20	15	5	0	0	5
新千里桜ヶ丘メゾ ンシティ	114	92	38	2	0	3
新千里東町アーバ ンライフ	16	12	5	0	0	0
OPH新千里東町	12	11	6	0	0	0
ガーデンヒルズ千 里中央	58	54	13	1	3	4
シティハウス千里 中央	20	17	4	0	0	1
ジオメゾン新千里 東町	72	66	12	3	1	1
ジェイグラン千里 中央	0					
府営新千里東町住 宅	30	24	11	0	1	0
ステラハイツ千里	0					
グランドメゾン千 里中央東丘	51	48	7	0	0	0
ローレルコート新 千里東町あかしや の丘	70	67	8	0	6	1
UR都市機構新千 里東町住宅	32	27	4	2	5	0
全 体	495	433	113	8	16	16

一方、知らないと回答して人 186 人のうち、

- ・ 知っておく必要がある …… 148 人
- ・ 耐震基準を満たしているマンションなので、その必要はない …… 23 人
- ・ 自宅が倒壊するような地震は発生するのではないと思っているので、その必要はない …… 6 人
- ・ その他 …… 13 人

でした。

なお、避難所に関する質問では、自由記述欄に、以下のような回答が記載されていました。

- ・公的な通知はなにもない
- ・小学校などに行けばどうにかなる。
- ・避難所になりそうな建物は1、2か所で、すぐ目の前にある。
- ・東丘小学校か第8中学校かと思う。どちらか分からない。
- ・学校だと思うが、団地の方が新しいので、どこが安全なのかその時にならないとわからないから。
- ・日頃、高齢の私は自分の意志で自宅に居ると言っている。
- ・避難所が倒壊しないとは限らない
- ・住めなくなったときの話しは知らないです。
- ・他の持ち家に移る。
- ・情報が多く聞かれ易いと思う。
- ・避難所へは入れないと考えている（多人数過ぎて）
- ・目の前が避難所だろうし、物資とりに行くだけ。今のマンションが一番安全。阪神・東日本でも被災したし、去年の地震は我が家の状況が東海圏 TV で報道されるような状況。慣れた。
- ・越して来て半年になるが、情報を得ていない。
- ・調べていない。
- ・人数の関係で全員が避難できる場所は、屋内の所はないと思う。
- ・一時的な避難ではなく、ある程度の期間の避難先（仮に居住できる）の場所はわかりません。知っておく必要はあると思います。

- ・知っているが行かない。大勢で身動きができないことが想定される。
- ・当マンションでは、①原則自宅待機、②管理棟、③管理棟前広場、④その他当マンションの災害対策本部が振り分ける場所
- ・管理センター
- ・マンション管理棟
- ・当マンション管理棟